

あけましておめでとうございます。
今年もよろしくお祈りします。



昨年の夏、手足口病、ヘルパンギーナが
2年半ぶりに流行しました。
今年の冬にはインフルエンザが流行すると予想されています。
昨年夏、南半球ではインフルエンザが流行した事実があります。
コロナウイルスは変異を繰り返し「感染力の強い、重症度の低い
カゼ状態」になっています。
重症者はほとんどおらず、インフルエンザによる肺炎、脳炎の方が
明らかに重症だということです。
発熱した場合は、①冬のカゼ、②コロナ、③インフルエンザ、
④その他のどれかを判断していくことになるでしょう。

発熱した場合は、感染症であれば、ほとんどウイルスです。
細菌による感染は1-2割程度です。
ウイルスの中でもインフルエンザと判明すれば、
抗インフルエンザ薬が使えます。



抗インフルエンザ薬

①タミフル	ドライシロップ、 カプセル	1日2回5日間内服
②リレンザ	吸入薬	1回2吸入、 1日2回5日間
③イナビル	吸入薬	1回吸入のみ
④ラピアクタ	点滴用 (中等症～重症)	点滴1回のみ (原則)

お知らせ

岐阜市の漢方外来 1月7日(土), 21日(土)

時間: 14:00-17:30 場所: 中島小児科(岐阜市健産東町2-1) ※すべて「院外処方」です。

ウイルス(細菌も含め)感染症に漢方薬を使う方法があります。

発熱に使える漢方薬

①発汗させて解熱を図る	(1)葛根湯、(27)麻黄湯
②冷えて困っている	(127)麻黄附子細辛湯
③発汗したが熱が下がらない	(45)桂枝湯
④熱が上がり下がりする	(10)柴胡桂枝湯
⑤顔がほてり、口喝を訴える	(34)白虎加人参湯
⑥便がたまって、 おなかが張って苦しい	(133)大承気湯

知っていると便利 強力なウイルス感染に対して2つ!

- ①大青竜湯(エキス剤にないのでエキス剤を組み合わせで作ります)
 - (27)麻黄湯+(28)越婢加朮湯(全く無汗、しんどい)
 - (45)桂枝湯+(55)麻杏甘石湯(無汗～わずかに発汗)
- ②柴葛解肌湯(さいかつげきとう)
 - (1)葛根湯+(109)小柴胡湯加桔梗石膏
(スペインカゼのときに活躍しました、死亡者ゼロ)



※現在のコロナウイルスは、①大青竜湯で十分対応できます
(よほどの重症例でなければ)。
大青竜湯はインフルエンザによく使っています。
原因不明の高熱、無汗なら試す価値があります。

今年の冬は、西洋薬・漢方薬を総動員して早めに解熱を図ります。

小児夜間急病センター当番日 1月6日(金)

時間: 19:30-22:30(受付) 場所: 岐阜市民病院